

CBAP®認定 合格体験記

(株) NTTデータ 斎藤忍

私は SI ベンダに所属しており、今回 CBAP®を取得しました。

これまで CBAP®を取得された方の合格体験記は私自身も大変参考にさせて頂きました。本記事が、これから CBAP®取得を考えられている皆様に少しでもプラスアルファになれば幸いです。

合格体験記というスコープからは少し外れている部分もありますが、私と BABOK®との出会いから時系列にこれまでの取り組みを述べさせていただきます。

1. BABOK®との出会い

BABOK という言葉を初めて聞いたのは 2008 年の夏頃でした。北米にある弊社の調査系のグループ会社からのレポートで知りました。当時は IIBA のサイトでは ver1.6 がパブリックレビュー版として公開されていました。

その頃の私は、弊社の開発方法論 (TERASOLUNA (テラソルナ)) の上流プロセスの検討・策定に関わっており、早速 IIBA のサイトからダウンロードをして内容を確認しました。上流プロセスのアクティビティやタスクの検討に際して、BABOK®の知識エリアのエンタープライズアナリシスを参考にすることになりました。このあたりの経緯については日経コンピュータ (2010 年 7 月 7 日号) の特集記事に掲載されています。

(※TERASOLUNA4.0 は 2009 年 4 月にリリースされました。現在の最新版は 4.2 です。)

2. 社内での勉強会

2009 年に BABOK® ver2.0 が公開され出版されました。続いて IIBA 日本支部から BABOK®の日本語版も出版されると、BABOK®というキーワードを様々な媒体やイベントで聞く機会が増えてきました。弊社は IIBA 日本支部のスポンサー企業でもあり、私が IIBA 日本支部との担当窓口をしていたことから、社内からの問い合わせも来るようになってきました。そこで、グローバルな上流プロセスの知識を体系的に学べるメリットもあることから、今年度 (2011 年) から有志を募って BABOK® (英語版) の勉強会を企画しました。

(メンバで担当する知識エリアを決めて、隔週程度の頻度で内容の発表とディスカッションをしています。現在も継続中です。)

3. CBAP®試験対策の受講

勉強会で改めて BABOK®を読んだことから、私自身の知識や経験の棚卸し・整理の観点からも CBAP®を取得するモチベーションがでてきました。そこで、富士ゼロックス総合研

究所 (FXLI) の「CBAP®試験対策コース」を 2011 年 6 月末に受講しました。このコースは日本人初の CBAP®認定者である伊藤衡さんが講師をされていました。3 日間の内容は、BABOK®自体の内容から始まり、講師の経験も踏まえた CBAP®出願書の書き方や留意点、CBAP®試験の問題と解説、受験に向けた勉強法など、非常に実践的で内容の濃いものでした。コースの最終日には CBAP®と同じ問題数 (150 問) の模擬試験をおこない、実際の CBAP®試験のボリューム感や時間配分も体感することができました。これから CBAP®を受験される方には是非お奨めできるコースだと思います。

4. 出願準備

コースを受講後、出願準備に取り掛かりました。初めに IIBA のメンバ登録をおこないました。CBAP®の出願をするには 2 名の推薦人が必要になります。現在の勤務先を含めなければいけないことから、一人は所属する組織の上司をお願いをしました。もう一人は筑波大学の中谷多哉子先生をお願いをしました。中谷先生は要求工学を専門にされており、最近では南山大学の青山幹雄先生が主査をされている JISA (情報サービス産業協会) の WG でもご一緒しております。(2011 年 7 月にこの WG から「要求工学知識体系 (REBOK)」を出版しました。)

CBAP®の出願で過去の合格者の方も苦労されている業務要件の登録ですが、過去 10 年間のビジネスアナリシスに関連する業務をできる限り登録しました。結果的には 10,000 時間近くを登録することができました。7 月上旬にオンラインで受験申し込みをして、8 日後にメールで出願承認のメールが来ました。その後、受験料を郵送にて送りました。7 日後に受験受付のメールが届きましたので、約 2 週間後の 8 月上旬の日程を選択しました。日程を選択すると確定のメールがすぐに来ると Web の画面には表示されていたのですが、結局日程確定のメールが届いたのは 3 日後でした。

5. 試験対策

ここから試験当日までの約 2 週間は、模擬試験を解き、解答の解説文を読み、該当する BABOK®の箇所にマーカーを引いて確認する、という伊藤衡さんの書籍 (『BABOK 入門』) にならった試験対策を続けました。前述しました「CBAP®試験対策コース」の教材として 150 問の模擬試験が 4 セットありましたので、それらを使いました。150 問をひとつおき解答するのにおよそ 2 時間~2 時間半程度かかっていました。

個々人の英語の読解力にもよりますが 150 問はさすがに私には長丁場です。模擬試験をする際には解答時間は 50 問単位で測定するようにしました。その結果、50 問、100 問、150 問と解答していく間に自分の解答スピードが 1~2 割程度遅くなっていくことが分かりました。何に活用できたかと聞かれると困ってしまいますが、自分の集中力の減衰の傾向は分かることができました。。。

6. 試験当日

当日はテンプル大学の 1 室で午後から受験しました。試験センターの方に用意して頂いたノート PC から Castle WorldWide 社の Web サイトにアクセスをして 1 問 1 問解答していきます。2 時間 45 分ぐらいで 150 問をひとつおき解答しました。思った以上に時間がかかったと感じましたが、いつもより（模擬試験を解いていた時より）少し丁寧に問題を読んでいたことが理由だと思います。その後、1 問目から見直しを始めました。残り 15 分位になったときに、次の問題を表示させる「Next」ボタンを押した瞬間に突然サーバーエラーの表示がでました。あわてて、呼び出しボタンを押して試験センターの人に来てもらい、再接続をしてもらいましたが、接続ができませんでした。何度も試みてもらったのですがつながらないため、試験センターの方に Castle WorldWide 社に国際電話をしてもらいました。その間、約 20 分間私は会場から退席をするように言われたため、部屋から出て待っていました。その後、再接続できたため、試験を再開しました。残り時間を 2~3 分残して [Submit] ボタンを押すと、合格であるとの文章が表示されました。試験センターの方が来られて、試験はこれで終了とのことでしたので、会場を後にしました。

7. これから

この秋には、前述しました社内勉強会のメンバも CBAP®を受験する予定です。BABOK®が取り上げている『ビジネスアナリシス』という活動は、ビジネスと IT をつなぐ SI ベンダにとっても今後ますます重要です。私も SI ベンダの一員として今後も積極的に BABOK®の普及・認知度向上に関与させて頂ければと思っています。

「IIBA」「BABOK®」は International Institute of Business Analysis の登録商標です。

TERASOLUNA and "TERASOLuNA" logo are trademarks or registered trademarks of NTT DATA Corporation in Japan and the People's Republic of China.

その他、文中に記載されている商品・サービス名、および会社名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。